２０２２年（令和４年）　１２月２６日　月曜日

デーリー東北　１３面　掲載

光星男子16強逃す

全国高校バスケ

バスケットボールのウインターカップ第75回全国高校選手権は25日、東京体育館などで男女の2、3回戦計24試合が行われた。青森県勢は男子2回戦で八学光星が阪南大高（大阪）に逆転負けし、16強入りを逃した。女子3回戦では柴田が岐阜女に力負けし、今夏の全国高校総体に続く8強入りはならなかった。

▽男子2回戦

阪南大高（大阪）	78	30	16	16	16
八学光星	63	10	22	16	15

八学光星は第3クオーター（Q）までに5点のリードを奪ったが、運動量が落ちた第4Qは相手のスピードに翻弄されて失点を重ねた。柴田は相手の留学生選手中心の攻撃に手を焼き、守備の修正ができないまま、突き放された。

互角以上の戦い、第4Q暗転

焦点

5点リードから悔しい逆転負け

八学光星が終盤に踏ん張りきれず、〝全国2勝目〟を逃した。第3クオーター（Q）終了時に5点をリードしていたが、最後の10分間で15点差とされた。古澤然主将は「何かが悪くなったわけではなかった。相手ガードのスピード、技術が自分たちの守備を上回った」と脱帽した。

相手は今夏の近畿大会準Vの強豪だったが、光星メンバーは外国人留学生を中心とした攻撃への対応策として、ゴール下の守備を全員で固めた。守る時間を短くしようと、攻撃時は24秒をフルに使ってじっくりと攻めた。中盤まではまさに互角。難敵撃破に向けたシナリオ通りに進んでいた。

だが、第4Qに入ると、相手の攻撃の変化に対応できなかった。留学生を警戒した分、他選手への守備が甘くなった。特に、相手ガードには12点を決められた。同じくガードを務めた成田倖紳は「終盤は少し疲れが出てきた。スピードに対応できず、一気に試合の流れを変えられてしまった」と悔しがった。

リードを広げられてからの最終盤は3年生をコートに送り出し、試合を締めくくった。現チームは昨秋の青森県新人戦、今夏の県高校総体での優勝を逃した。今秋のウインターカップ県予選で初めて県大会を制し、チーム悲願の〝全国1勝〟も実現した。

川村優生は「最高のメンバーだった。最後は負けたけれど、自分たちの力は出し切れた」と、悔し涙を流しながらも完全燃焼を強調した。（上村公佑）

【男子2回戦・八学光星―阪南大高（大阪）】第2クオーター、八学光星は成田倖紳（右）がシュートを決め、17―16とする＝東京都大田区総合体育館

第4クオーター、八学光星は川村優生（右）がシュートを決め、62―73とする

26日は男子3回戦と女子準々決勝計12試合が行われる。（上村公佑）

デーリー東北新聞社提供